

おひさま サタタ



2012

vol.111

4



はいっポーズ!

《上常呂地区・広郷》

長部 ^{ほるな}舞さんと ^{ほのか}遙心ちゃん・ ^{ゆずは}明香ちゃん・ ^{ゆずは}柚花ちゃん
(紹介は2ページです)

特集

- 協同組合と歩む
2012年は国際協同組合年、その意義と課題
- 永年の功績認められ、3氏各賞受賞



季節の薫り

5月収穫を目指して



20号ほどに育ったトマト苗9000株が、2月末に植えられて1ヶ月を経過した。常時20℃～25℃に保たれたハウス内でスクスクと育った苗は約60号に伸び、4つから5つの第1花房が開花している。

5月の中旬の収穫を目指し、家族総出で第1花房を確実に着果させ、肥大を早める「ホルモン処理作業」と、葉の付け根から出るわき芽を摘みとって主枝1本を伸ばす「芽かき処理作業」が行われている。この地道な作業が高品質でトマト独特の酸味を生み出す。



ヨーロッパでは昔から「トマトのある家に胃病なし」と言われたほど健康に良い野菜の一つだ。酸味が胃液の分泌を促し、消化を助ける。特にビタミン類をたくさん含み、ビタミンCは細胞をつなぐコラーゲンを作り、血管を丈夫にする役割を担っている。

当JA管内では、「桃太郎はるか」と「ハウス桃太郎」が中心に作られている。地産地消を高める上でも健康に良いトマトをみんなで食べよう！

【写真は3月21日、上常呂地区・上ところの柳瀬昌弘さんのハウスで撮影。柳瀬さんでは、2月28日と29日の2日間でビニールハウス10棟(960坪)に約9000株のトマト苗を定植しました。写真左は、ホルモン処理作業を行う奥さんの恵美さん(中央)とお母さんのチ子さん。写真右は、開花した第1花房】

もくじ CONTENTS

○おひさまサラダクッキング 「豆のカレー」 「ピリ辛ピクルス」	22
○JAからのお知らせ	16
○ほのぼのの広場 ・きたみらいのホープさん ・思い出の写真 ・マイティスト 「手芸」 ・私のパートナー ・わが家のアイドル ・大きくなったら ・おらがまちのおしどり夫婦 ・まちがいがさがし ・読者の声	12
○JAきたみらい ホットライン東西南北	8
○表紙紹介 「仲良し3姉妹」	2
○季節の薫り	2
特集① 協同組合と歩む 2012年は国際協同組合年、 その意義と課題	4
特集② 永年の功績が認められ 3氏 各賞受賞	6

表紙紹介

仲良し3姉妹

「こんにちは！」と玄関ドアを開けると、お揃いの服を着て迎えてくれた運心ちゃんと萌香ちゃん。

2人は、お父さんやお母さんが運転する車で、上常呂保育所に通い、お友だちと「コマ遊び」や「あやとり」などをして遊んでいます。仲良しの姉妹に昨年の9月、妹の柚花ちゃんが生まれ、お姉ちゃんとしての役割を果しています。

「大きくなったなら何になりたいの？」と聞くと、運心ちゃんは「ケーキ屋さん」、萌香ちゃんは「お花屋さん」と元氣良く答えてくれました。

ホッペぶりのんぶりの柚花ちゃんに頬を寄せ合いながら遊ぶ3人に、お父さんとお母さんは「健康が第一。そして心の優しい子に育ってほしい」と、これからの成長を願っていました。

取材中終始、ひ孫や孫の遊ぶ姿を見つめるひいおばあちゃん、そしておじいちゃんとおばあちゃんの優しい笑顔が印象的でした。



【ご家族紹介】
前列左から～おばあちゃんの節子さん(55)と三女の柚花ちゃん(6ヶ月)、長女の運心ちゃん(5)、おじいちゃんの直行さん(58)と次女の萌香ちゃん(3)、ひいおばあちゃんのサダさん(84)。
後列左から～お父さんの朋和さん(27)とお母さんの舞さん(28)。
長部さんでは、秋小麦、てん菜、馬鈴薯(加工含む)、野菜など10.6畝作付けしています。

協同組合と歩む

2012年は国際協同組合年 その意義と課題

2012年は国際連合（以下、国連）が定めた国際協同組合年に当たります。私たちが協同組合と歩む意義や課題について、国際協同組合年をきっかけに考えてみましょう。

JA全中総務企画部長 比嘉政治

国際協同組合年（IYC）とは？

国連が2012年を国際協同組合年と 国際協同組合年と 定めた背景

国連は2012年を国際協同組合年(International Year of Cooperatives=IYC)と定めました。国連は、協同組合を「人々の経済社会開発への最大限の参加を促している」「持続可能な開発、貧困の根絶、都市と農村地域における様々な経済部門の生計に貢献できる企業体・社会的事業体」と高く評価しています。この背景には、2007年の

食料危機、2008年以降の金融・経済危機に対し、協同組合が高い耐久力・回復力を示したとの認識があります。

IYCの目標は「協同組合の認知度向上」

国連は、IYCの目標を「社会経済開発に対する(協同組合の)貢献に関する認知度を高める」などとし、スローガンを「協同組合がよりよい社会を築きます」に定めています。「協同組合は価値ある存在だが、多くの人がそのことを理解していない。IYCを定めるので、協同組合への理解促進の契機にしてほしい」というのが、国連からのメッセージです。

いつの時代も課題があり「協同」での解決を模索した

1844年、英国でロッチデール組合が誕生しました。荒々しい資本主義の勃興期に、生活用品の高騰、混ぜ物販売などの不正、高利貸しなどに苦しむ人々が、協同組合をつくらせて暮らしを守ろうとしました。

わが国でも天保9(1833)年大原幽学の指導による「先祖株組合」が誕生し、信用、営農、共済のような事業を行いました。「宮尊徳の「報徳社」と共に、日本の農協のルーツといわれます。

こうした歴史の積み重ねの上に、現在の協同組合があります。協同組合は、組合員のニーズ・願いに応えることで発展しました。背景には、いつの時代も困難な課題があること、人々には「助け合う」気持ち常在にあり、共助によりこれら

の課題は、市場経済の徹底で解決可能でしょうか。数年前、小泉内閣のブレーンであったある経済学者が、「懺悔(ざんげ)の書」と称される書籍を著されました。同書には、市場原理主義、小泉構造改革路線は誤りだった、と書かれています。そして「公正な社会実現のためには、国やさらに小さな単位での経済・社会の仕組みや長期的観点・信頼を基にした企業経営、考える現場、自然との共生、中間的共同体が重要」とされています(筆者個人の所感です)。

市場経済は万能ではない、との認識が広がり、個別分野での解決策は論じられています。しかし、わが国社会の課題は深刻化しており、あるべき社会の全体像は描き切れていません。これがわが国社会の現状と考えます。

ロッチデール組合の誕生時と同様の「社会矛盾」の中で

ロッチデール組合誕生当時も、社会矛盾がありました。「歴史の後知恵」が可能な我々は、労働法制整備、消費者・金融行政確立、情報公開などの解決策を提示できます。協同組合の大きな役割も知っています。

JAグループが狙う社会的意義

JAに対する理解を広げたい

このような視点から見て、JAグループは、大きな社会的意義を持っています。自らの収益で営農指導し農業振興している、採算困難な農村部でも高齢者福祉・医療を提供している、助け合い組織など多くの地域運動を支えている、地産地消や金融・共済を通じ地域内の資金循環を促

している、地域から離れず(離れることができます)、地域と共に何とか突破口を探す努力をしている、ことなごです。IYCを契機に、従来以上にJAに対する理解を広げたいと考えています。



わが国のIYC実行委員会などの活動具体策

わが国では、JAグループ、生協、漁協、労協、信金などの全国組織の代表者や有識者で構成する「IYC全国実行委員会」を設立しました。運動重点を「社会・経済に対する協同組合の貢献についての認知度向上」に定め、HP、メールマガジン、イベント、説明資料の作成、CMでの紹介、ロゴやスローガンなどの普及に取り組んでいます。露出を増やし、HPなどに誘導し



の課題を解決しようとしてきたことがあります。

現在のわが国社会をどう見るか

わが国経済は市場経済を中心としていますが、多くの課題を抱えています。安定的な食料供給、地域社会の疲弊、高齢者福祉、地方医療など

て、協同組合への理解を広げたい、特に情報発信力を持つマスコミ関係者、有識者に対し理解を求めたい、と考えています。

IYCを契機に

JAでの活動は、各県中から別途提起があるものと思います。私からお願したいのは次の活動です。
①JAからの情報発信に際し、「2012年は国連が定めたIYC」世界的に協同組合は評価されている」との2点を加えていただきたい。「JAグループ統一コンテンツ」でもIYCを取り上げますし、パンフレットも作成します。
②名刺、印刷物などを通じて、ロゴやスローガンを露出していただきたい。関心を持った方がIYCのHPを見れば、理解が広がります。

誇りに思う

私たちJAは、国連が協同組合を高く評価し、IYCを定めたことを誇りに思います。しかし、IYCをPRすること自体がその意義ではありません。大切なのはこれを契機に、国連もつまく使ってJAへの理解を広げること、自らの役割を自覚し直すことの2点であると考え、取り組もうと思っています。

永年の功績認められ

加藤孝幸会長
理事
坂下一夫 代表
専務
伊藤満智子 北海道
指導農業士

受賞

おめでとう
ございます！

JA 全中功労章〈緑綬〉
北海道 産業貢献賞〈農業 団体等功労〉
北海道 産業貢献賞〈農業 指導等功労〉

当JAの加藤孝幸会長理事と坂下一夫代表理事専務、端野地区・3区の伊藤満智子北海道指導農業士の3氏が、平成23年度におけるJA全中の農業協同組合功労者と北海道産業貢献者として受賞されましたので、ご紹介致します。



きたみらい農業協同組合
会長理事
加藤孝幸氏
(67歳)

加藤会長は、平成5年4月に旧北見市農業協同組合理事、翌年4月に代表理事専務、平成8年4月に代表理事組合長に就任しました。組合長就任後、近隣組合間の大同団結が必要と組合員に啓蒙し、平成15年2月、1市4町の8農協広域合併を実現。

合併後の「きたみらい農業協同組合」では、代表理事専務を4年間務め、平成19年4月、代表理事組合長に就任。販売高全道1位の農協のトップとして組合員の所得向上に大きく貢献しました。

この様な積極的な農協運営と行動力が認められ、平成19年6月ホクレン監事、平成20年6月には北海道厚生連副会長、全共連北海道本部運営委員会副会長に就任し、北海道の地域医療並びに保健福祉の向上、さらに地域住民と利用者に安心と満足を提供することを目的に全道各地を巡回し、共済事業の普及拡大などに尽力されました。この様に長年に亘る北海道農業の振興と農村の活性化に貢献したことが認められ、平成21年2月に「北海道産業貢献賞」を受賞し、今回は全国農業協同組合中央会の「功労章」受賞となりました。

加藤会長は「地域組合員とJA役職員関係者の皆様のご理解とご協力によって得られたもので、大勢の方々に改めて『ありがとうございます』と感謝の言葉を述べたい」と受賞の喜びを述べてくれました。



きたみらい農業協同組合
代表理事専務
坂下一夫氏
(62歳)

坂下専務は、平成元年に旧留辺蘂農業協同組合理事、平成13年、同組合の組合長代行に就任し、地域の農業振興に努めました。

平成15年2月、旧8農協広域合併して誕生した「きたみらい農業協同組合」の理事、平成16年4月に留辺蘂支所運営委員長に就任。特に、農協の将来を見据え、経営基盤の安定と確立を図るために、組合員に対し農協運動の原点を唱え、内部留保の充実による経営基盤の強化、施設の広域利用を推進し、小麦乾燥調製貯蔵施設整備を始め、農家個々の施設投資軽減に努めました。

その後、平成19年4月に営農専門委員長、平成20年6月に常務理事、平成21年2月に代表理事専務に就任し、現在に至っていますが、酪農家の労働力軽減や経営安定を図るため、平成22年10月に完成した哺育育成センターの導入にも尽力されました。

オホーツク管内では、農協酪農畜産対策委員会の委員、農産物検査センター運営委員などを歴任。また、北海道農業団体健康保険組合の議員として、地域農業振興のみならず北海道農業の振興に広く活躍をされています。

坂下専務は「農業関係者を始め、地域皆様のご協力とご支援の賜物です」と受賞の喜びを話してくれました。



北見市端野町3区
北海道指導農業士
伊藤満智子氏
(73歳)

伊藤さんは、平成6年度に北海道指導農業士に認定されて以降、農業改良普及センターや農業関係機関からの研修生の受け入れを積極的に行ってきました。また、地域の農村女性で作る「食研究グループ」の代表を務めながら、小学校児童とその両親を対象に「農作業体験学習」や「味噌作り体験学習」を15年間継続して実施し、食の安全・安心、農作物を作る難しさ、楽しさを通して「食と農を理解する」きっかけとなる食育活動の推進を図られました。

また、地元農産物を活用した味噌や大豆などの製造・加工を行い、15年間にわたり地元保育所と小中学校の学校給食に「のんた味噌」を提供するとともに、「食の安全」や「伝承の味」を伝え、地域に根ざした活動を展開されました。

伊藤さんは「グループや家族、関係機関などお世話になった方々に感謝したい」と受賞の喜びを話してくれました。



神経集中させて フレーム作り

～支部研修会に
会員10人参加～

相内



▲ミニチュアフレーム作りに励む会員

フレッシュミクス相内支部（不破美絵支部長）は3月21日、地区事務所
で支部研修会「ミニチュアフレーム
作り」を行い、会員10人が参加しま
した。

参加した会員の皆さんは、作り方の
手順パンフレットを参考にしながら、
神経を指先に集中させていました。
作成中は、同支部で本年予定して
いる府県研修や料理講習会などの会
話で盛りあがる中、可愛いミニチュ
アフレームが完成（円写真）し、互
いの作品を評価し合っていました。

商品化を目指し 乳製品作り

～1歩ずつ前進
ミルクVACCA～

湯根温



▲チーズやキャラメル（円写真）を作る会員

酪農女性グループ「ミルクVACC
CA」は3月30日、おんねゆ農業交
流センター「花える」で定期研修
を行い、会員8人が参加しました。
当日の朝に搾られたばかりの牛乳
50kgを持ち寄り、キャラメル、ミル
クジャム、春巻き、チーズなどを作
りました。チーズはpH（ペーハー）
や水分を調整するのがポイントで、
牛乳40kgを使って、約4kgのチーズ

ができる程度です。
平成17年にスタートし、7年目と
なる同グループの目標は「幸せ感
を地域に広げる」。乳製品処理に伴う
保健所などの許可を得る高いハード
ルに対し、代表の石井加代子さんは
「少しずつ勉強し、ゆっくりと前進
したい」と話してくれました。

東 西 南 北

▼畜産公社の概要を聞く部員



OKETO

置戸

小動物の屠畜 食の尊さを再認識

～畜産視察研修に
部員12人参加～

青年部置戸支部畜産部会（小山勇樹部会長）は3月19日、部員12人が
参加して視察研修を行いました。
本研修は毎年、部員の知識研鑽と
技術習得を目的に実施。今年度は、
東藻琴の北海道畜産公社北見事業
所と乳酪館を視察しました。
畜産公社では、藤元工場長より北
見事業所の概要などの説明を受けた

後、工場に移動しました。
小動物（豚）の屠畜から加工まで
の流れを、工場担当者の説明と共に
見学しましたが、「食の尊さ」を改め
て認識しました。
部員からは、屠畜に伴う汚染水の
処理方法など活発な質問が出るなど、
有意義な研修を終えました。

▼総会後にスカットボールを楽しむ会員



KAMITOKORO

上常呂

全議案を 満場一致で可決

～年金友の会総会に
会員63人出席～

J Aきたみらい上常呂年金友の会
（林鉄太郎会長）は3月22日、上常
呂コミュニティプラザで第24回通常
総会を開催し、会員63人が参加。
総会では、23年度の活動報告と収
支決算報告、さらに本年度の事業計
画と収支予算案などが説明されまし
た。昨年の反省を踏まえた建設的な
意見や質問などが出された中、全議

案とも満場一致で承認されました。
総会終了後には、会場内で総会出
席者全員でスカットボール大会を行
いました。レーンからボールが外れ
たり、真つすぐカップインするなど
のプレーに、笑い声や拍手などの音
が会場に響き渡っていました。

豊穣の秋を願い 種芋の搬出

～植付けを万全に
営農準備開始～

TANNO **端野**



▲倉庫内から出された種芋を確認する生産者

端野町馬鈴薯振興会（島倉英一会長）と種子馬鈴薯生産組合（高橋博幸組合長）は3月26日から、選果場施設内で本年度の種芋の受け渡しを始めました。端野地区の馬鈴薯作付面積は、食用で450畝、加工用畝種子105畝を予定しています。コンテナ内にネット詰めされた種芋をリフトでトラックに積み、規格

と数量を確認しながらの受け渡し。倉庫内には種芋のコンテナが約1200基準備され、受け渡し作業は手際よく行われています。受け渡しは4月10日頃まで続けられ、ハウスで芋きりなど植付けに向けた本格的な営農準備に生産者の皆さんは、豊穣の秋を期待しています。

越冬長ネギ 間もなく食卓に

～柔らかく甘さも最高と
消費者に好評～

KITAMI **北見**



▲出荷準備の作業を進める竹中さん夫妻

市内とん田西町の竹中義一さんは、ビニールハウスで越冬長ネギ「松本一本」を150坪栽培しています。パオパオなどで三重に覆われた長ネギは、収穫に向けた管理作業が行われていました。例年より細身の長ネギに竹中さんは、「地温が上昇し、もう少し太ってほしい」と収穫間近までの好天を期待していました。

試験掘りした長ネギは、全体に柔らかく「熱を加えると、甘味が一段と増すよ」と調理方法を教えてくれました。収穫開始を3月20日頃に予定している竹中さん。掘り出した長ネギは1日かけて乾燥し、土を落として皮をきれいにむいた後、箱詰めされて出荷されます。



▼岩間普及員(左)から指導を受ける会員



RUBESHIBE **留辺 楽**

果樹の 剪定技術を学ぶ

～女性グループが
剪定講習会～

瑞穂地区の女性グループ「茶マメちゃん」は3月29日、果樹・小果樹の剪定講習会を行いました。講師は、網走農業改良普及センターの岩間普及員。花園会館で剪定方法などの説明を受けた後、会員宅へ移動。黄桃やプラム、梅の果実を取りやすい高さで剪定する技術を学びました。肌寒さを感じる中、参加し

た会員は「混み合っている枝を剪定するのですか?」「この枝は切っているのですか?」などを質問しながら、技術を高めていました。同グループは、果樹の栽培や加工を楽しむことを目的に、平成20年に結成されました。

▼ポリフィルム掛けに励む佐藤さん(右)



KUNNEPPU **訓子 府**

イチゴ苗の 管理作業始まる

～5月中旬の
初出荷をめざして～

高園の佐藤利治さんは、イチゴ栽培を導入して18年目を迎えます。蒸し暑さを感じるハウスでは、今、苗の管理作業が本格化しています。昨年の8月に、親株のランナーに付いた子株を採取し、2株を長方形の発泡スチロール箱に定植。雪の下で2月末まで寝かせた後、ハウスをビニールで覆い、健康な苗作りに心掛けてきました。3月22日

からの高設ベンチへの移動を終えた現在は、古い枯れ葉を取り除く「葉かき」作業と、マルチトンネル掛け作業に追われています。5月中旬からの出荷と、6月上旬開園予定の「イチゴ狩り」に向けて佐藤さんは、「今年も甘くておいしいイチゴを大勢の人に届けたい」と意気込みを話してくれました。

私のパートナー



今月号の「私のパートナー」は、昨年の12月に結婚し、6月に誕生する第一子を心待ちにしている安藤康佑さん、悠希さん夫妻を紹介します。

6月に第一子誕生

端野地区・川向
安藤 康佑さん(24歳)
 こうすけ
悠希さん(32歳)
 ゆうき

- Q ご結婚されたのはいつですか？
 昨年の12月1日です。
- Q 結婚生活はどうか？
 お二人とも＝毎日、仕事から帰ってくるのが楽しみです。
- Q 初めて合った時の印象は？
 康佑さん「きれいな人だなあ～(^_^)」
 悠希さん「口数が少なく、おとなしそう」
- Q 互いに感謝しているところは？
 康佑さん「毎日、料理を作ってくれること」
 悠希さん「家事を手伝ってくれること」
- Q 1週間、自由な時間があったら？
 新婚旅行に行っていないので、旅行に行きたいです。場所は沖縄。あとは、お金を掛けなくて家のリフォームを自分でやってみたいです。
- Q どんな家庭を築きたいですか？
 仲が良く、何でも話せる夫婦でいたいです。
- Q 今後の目標、あるいは夢を？
 康佑さん「経営面積の拡大を図りつつ、手間を掛けてより良い作物を作りたいです」
 悠希さん「頑張って大きな家を建てたいです」



【写真説明】
 共進会の休憩時間に、渴いたのどを潤したり、タバコの一服を楽しむ地域の皆さん。中央で白の上下服でデーリィキャップを被っているのが、葛葉さんです。

置戸地区・常盤
 くずは
葛葉 正幸さん(63歳)



思い出の写真

家畜共進会

この写真は約20年前に、町内で家畜共進会が開催され、出陳合間の休憩の時に撮影されたものです。平成15年のJAきたみらい誕生前は、各JAで共進会を開催し、置戸町で一番多かった時は、70頭余りの乳牛が出陳していました。共進会は「個人戦」と「団体戦」。地域の仲間で協力しながら、優れた乳牛を何頭も出陳し、団体優勝を何度もとったことを話してくれました。その外に、アトラクションやお楽しみ抽選会などもあり、子どもからお年寄りまで家族ぐるみで楽しめる酪農家のイベントでした。葛葉さんは「でも一番の楽しみは、終わってからの慰労会で飲むお酒だったかな？」と、笑いながら思い出を話してくれました。JA合併年から開かれたJAきたみらい乳牛共進会には出陳していましたが、最近では見学のみで、毎年、欠かさず見に行っています。現在は仕事の合間をみつけて、コンサートに出掛けたり、図書館で本を借りて読書などを楽しんでいます。

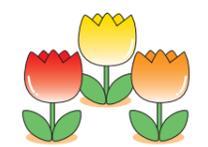
マイテイスト 手芸

My Taste
 吉井さんの趣味は手芸です。15年ほど前、知人がはぎれで作った買い物バックを見た時、「とてもおしゃれ」と感じたことをキッカケに、農作業の合間を見ては、いつもミシンの前に座っている吉井さんです。平成10年頃に購入したミシンも、使いすぎて壊れ、現在のミシンは2代目。作業場も以前は、茶の間の一隅でしたが、ミシンの音が家族に迷惑と平成21年、ご主人の健一さんが住宅の横に手づくりの「工房」を建ててくれたことに「とても感謝している」と笑顔で話してくれました。それ以来、吉井さんは、誰に気兼ねすることなく自分の時間を楽しんでいます。工房には、上下の農作業着、腕抜き、帽子、きんちゃく、手帳ケース、手さげバックなどが数え切れないほど並んでいます。数々の作品は、女性部訓子府支部の「収穫祭」や町の「ふるさとまつり」などに展示していますが、中には「是非、分けて欲しい」という方もいます。この様な反響からリピーターも増え、工房へ「教えて下さい」と訪れる人もいます。つい最近、お気に入りの生地を見つけた吉井さんは、ニューバージョンの農作業着づくりに励んでいます。「夢中になると時間も忘れてしまう」と嬉しそうに話す言葉には、満足感と作品作りの構想を練っているのが、ヒシヒシと伝わってきました。



訓子府地区・穂波
吉井 友子さん(64歳)

▶ 農作業着、帽子、手帳ケース、きんちゃく、手さげバックなど数々の作品。



ほのぼのの広場



きたみらいの
ホープさん

既存作物の
収量アップ
 上常呂地区・常川
森田 一輝さん(24歳)

一輝さんは、玉葱、秋小麦などを栽培している森田弘一さん、幹子さん夫妻の長男で就農して3年目です。

- 趣味は？
 ドライブ（スピード狂）です。
- 理想の女性？
 特にありませんが、元気な人がいいです。
- 結婚はいつ頃までに？
 30歳くらいが節目かな？
- 好きな食べ物は？
 肉が大好きですが、体の事を考えて野菜もたくさん食べています。
- 農業に対する抱負を
 就農してから「強風」や「湿害」などの自然災害が多く、農業は大変だと実感しています。まずは既存作物の収量アップを目指したいと思います。そして最近のTPPなど農業情勢が不安定なので、それらに耐えられる経営のために、いろんな可能性を見つけて多角化を模索したいです。
- 5月号の「ホープさん」は、JAきたみらい青年部置戸支部の？さんを予定しています。広報編集委員が、突然、取材にお伺いすると思いますが、何卒、ご協力願います。

1市2町の 小学校に食育教材贈る

25校に1350冊

農林中金金庫の資金拠出で設立された社団法人「JAバンクアグリ・工コサポート基金」は、平成20年度から、食農教育を応援する社会貢献事業の一環で、小学生向けの補助教材を作成し、全国の小学校に贈呈しています。

教材は「農業とわたしたちのくらし」と題され、「小学校高学年版」

(全校に贈呈)と「特別支援教育版」(各校の希望に沿って贈呈)の2種類。5年生を中心に社会科、理科、家庭科、総合学習の授業などに活用できます。

当JAも3月13日、北見、訓子府、置戸1市2町の教育委員会及び25校の小学校を訪問し、1350冊を贈呈しました。



▲北見市の佐藤教育長に補助教材を渡す鹿野内部長(右)

良質粗飼料確保を学ぶ

酪農セミナーに90人参加

JAきたみらいは3月26日、酪農振興協議会と共催し「酪農セミナー」を訓子府地区事務所で行いました。同協議会の会員や農業改良普及員、JA職員など約90人が参加し、良質粗飼料確保のための取り組みなど学びました。

セミナー開演に先立ち、当JAの坂下一夫専務は「配合飼料の値上げや原油高、円安の進行など不安定要素が多すぎる。JAグループも一体

となって環境改善に向けた要請運動に取り組む」と話し、さらに「経費節減や良質自給飼料の確保に努めてほしい」と、参加した酪農家の皆さんに呼び掛けました。

ホクレンの飼料部自給飼料課の岩淵慶調査役と、道立畜産試験場家畜研究部の佐藤尚親主査は「良質粗飼料の確保に向けた植生改善の取り組みと実例」と題して講演。

両氏は、「草地を単なる牧草や雑



▲良質粗飼料確保に向けた取り組みを学ぶ参加者

JAからの お知らせ

INFORMATION

草として捉えず、『資源』としての様に活用し、管理するかなど新しい視点が必要」と話しました。またリードカナリィグラスが繁殖している圃場は、積極的に草地更新を行う必要がある」と強調しました。

17年ぶりに誕生

女性指導農業士

温根湯の石井加代子さん

温根湯地区大和の有限会社「石井牧場」は、家族4人で酪農経営に励んでいます。構成員の一人、石井加代子さん(55)を北見市が推薦して、平成23年度の「北海道指導農業士」に認定されました。

来、実に17年ぶりに女性の指導農業士が誕生。

担い手育成と

農業発展の力に

JAきたみらい管内における北見(常呂町除く)、訓子府、置戸の3市町から、端野町3区の伊藤満智子さん(72)が平成6年に認定されて以

石井さんは夫の一男さん(57)とともに、経営の将来像を考えながら、経営の規模拡大を図ってきました。現在は、160頭(うち経産牛95頭)を飼養し、秋小麦16畝も作付けしています。

石井さん夫妻は、平成元年に法人を設立。石井さん夫妻と2人の後継者が同牧場の構成員となっています。平成17年には、2台の搾乳ロボットを導入し、先進的な技術を取り入れて経営向上に努め、地域内外から



▲認定書を手にした「担い手皆さんの力になりたい」と話す石井さん

の視察も受け入れ。また、道担い手センターなどの農業研修生も積極的に受け入れています。

平成17年に北海道JA女性部協議会のオーストラリア海外研修に参加し、参加した皆さんと交流を深める中で、チーズ加工に興味を持って帰国。当時の減産型の生乳生産計画に疑問を抱き、地域の酪農仲間と乳製品の加工について話し合いました。翌年、乳製品加工グループ「みる

『甘くておいしいね』と喜ばれるよう、今年も気持ちを含めて育てたい」と話してくれました。



▲メロン苗を丁寧に定植する福田さん夫妻

くVACCA(ハッカ)を立ち上げ、現在も代表を務めています。「加工食品で地域を元気に」をスローガンに、一般消費者や小学生を対象に食育活動も行い、地域興しイベントにも積極的に参加し、農業のPRも行っています。

網走農業改良普及センターの柳山浩之所長は「女性の目線で、若いお母さんたちへの道しるべを求められ大変かと思うが、石井さんのバイタリティーで頑張っている」と期待を寄せていました。石井さんは「地域の方々に育ててもらった。少しずつ何らかの形で恩返しができたら」と地域に感謝の言葉を話し、就農希望者や女性農業者などの担い手皆さんの活躍に少しでも役に立ちたい」と決意を話してくれました。

メロン定植始まる

くんねっぴメロン 6月中旬の出荷目指し

ハウス周辺に雪が30センチほど残る中、訓子府町の特産「くんねっぴメロン」の定植作業が、昨年より1日遅れの3月22日から始まりました。

「くんねっぴメロン」は、日照時間の長さや寒暖の差に恵まれていることから、甘さと品質に定評があり、「きたみメロン」と同様にJAきたみらい管内のブランド品の一つになっています。

春到来を告げる定植作業を始めた

のは、同町メロン振興会加温部会の11戸。ハウス内に設けたボイラーの温水を、床土の上と地中の間で循環させることで、一般の出回りより早い6月中旬の出荷を目指しています。部会員の福田節幸さんのハウスでは、家族総出で作業に励んでいます。地面に敷かれたマルチに70センチ間隔で「ルビアレッド」の苗を1株ずつ丁寧に植えています。福田さんは「消費者の皆さんから

INFORMATION



▲「生産者の励みになる」と挨拶する大坪常務

地名といっしょに、地産タマネギのPRにつながる」と歓迎。具材のタマネギを産地限定してアピールする同社の製品は初めてで、150万食が19日から全国発売されます。

同社は株式会社クリエイトイブ・エージェンシーと協力し、昨年1月1日にかけて「ラ王」に合う食材を47都道府県から探す全国キャンペーンを行い、北見タマネギが最高食材に選ばれました。

試食会では同社北海道支店の村岡智祐支店長らが、北見市の小谷町市長やオホーツク総合振興局の有利典局長ら地元関係者に新製品の概要と開発の経緯を説明しました。

参加者からは「タマネギのうま味がしっかり出ている」などの声が出ていました。

具材のタマネギは、フリーズドライ加工され1カップに約2g入り、全国一の生産量を誇るJAきたみらいが約20ヶ所調達します。

発表会に参加した当JAの大坪広則常務は「全国的なブランド商品の『ラ王』に合う食材とされて光栄。生産者の大きな励みになる」と挨拶。

また当日は、2010年8月から道内限定販売しているカップ焼きそば「北の焼きそば オホーツク北見塩やきそば」の、麺の改良とパッケージにイメージキャラクターの「塩やつき」を入れリニューアルされた商品も発表され、4月26日から発売開始となります。

▶「おいしい！」と小谷市長に声をかける有
好オホーツク総合振興局長(中央)



◀お湯が注がれおいしそうな「ラ王」



▲北見タマネギを具材にしたカップ麺「ラ王」

カップ麺「ラ王」 タマネギの うま味しっかりと 新メニュー19日から全国発売

日清食品のカップ麺「ラ王」シリーズで、北見産タマネギを使った新メニュー「日清ラ王 麺下分け目の戦いNO1食材 背脂濃コク醤油」の発表試食会が3月13日、北見市役所で開かれました。

参加者した皆さんは「北見という

平成23年度優良米生産出荷共励会

もち米 植村信也さん(端野) 最優秀賞

端野地区・2区の植村信也さんは、平成23年度優良米生産出荷共励会の「もち米部門」で、北見地区初の最優秀賞を受賞しました。

同共励会は今回が49回目。23年産まで3年間の出荷実績や技術などが審査され、植村さんは最優秀賞の水準に達し、受賞となりました。

特別栽培ながら慣行並みの収量を確保、1等米生産も貫く植村さんは、きたみらいもち米振興会端野支部特裁部会の会長も務め、部会の取り組みが評価された」と受賞の喜びを話

していました。

植村さんは、玉葱やもち米、小麦、てん菜など約30粒を作付けしています。もち米の栽培面積は4・4ha。

21年産は全量「はくちようもち」でしたが、22年で半分に減らし、23年産で全量「きたゆきもち」に切り替えました。端野地区では植村さんも含め25戸がもち米約100haで21年産から特別栽培を展開しています。

21年の収量は、冷害の影響で257haに落ち込みましたが、22年が505ha、昨年は560haと慣行栽培

に劣らない収量を確保すると同時に、3年間全量1等米としました。

植村さんは初期成育の向上に重点を置き、秋には全面積で稲わらをすき込み、心土破碎も実施し、苗が育ちやすい環境整備に努めています。また地区全体で各圃場ごとの熟期を把握し、計画的な収穫を行うなど、地区単位での取り組みも高品質生産を支えています。



▲「部会の取り組みが評価された」と受賞の喜びを話す植村さん

JAの加工食品に

新しい仲間が

4月11日発売予定

JAきたみらい管内で生産される農畜産物の付加価値を高めようとして加工食品の企画開発に取り組み、すでに「白花美人」「おひさまカレー」「なまらドレッシング」「玉ねぎと牛すじのカレー」「オニオンコンソメ」「きたみらい牛乳」などが販売されています。

今回、きたみらい産の馬鈴薯をオフシーズンでも味わっていただくために「男しゃく芋」と、新品種馬鈴薯の「スノーマーチ」を原料にした3種類の「冷凍コロッケ」と「カットポテト」を商品化しましたので、ご案内します。

北見男しゃくとネギのコロッケ

5ヶ入り 300g

昼夜の寒暖差が大きいこの地域で育った風味豊かな男しゃく芋とねぎのうま味がとても合うコロッケです。男しゃく芋ファンにはたまらない逸品です。
(小売希望価格357円)



熟成スノーマーチのポテトグラタン風コロッケ

5ヶ入り 275g



なめらかさと冬に甘味が増すことが特徴のスノーマーチ。この旬のスノーマーチを原料に北海道チーズと鶏肉を加えた新しい風味のグラタン風コロッケです。
(小売希望価格399円)

熟成スノーマーチカットポテト

500g



冬が旬のスノーマーチをカットポテトにしました。そのまま揚げてフライドポテトを始め、グラタンやジャーマンポテトなどアイデア次第でいろいろな料理に活用できます。
(小売希望価格399円)

北海道の郷土料理 いももちコロッケ

5ヶ入り 300g



男しゃく芋で作った北海道の郷土料理「いももち」をコロッケにしました。衣はサクサク、中身はもちもち、口の中ではスイートコーンのつぶつぶ感があって、新しい食感をおいしく楽しめます。おやつにもどうぞ！
(小売希望価格357円)

3種類のコロッケは4月11日に発売予定。お近くのエコーショップやバラポでお買い求めできます。

JAからの お知らせ

INFORMATION

第2回 理事会報告
平成24年3月23日(金)

3月23日、午前9時30分より第2回定例理事会が開催され、報告事項12件、議決事項10件が協議され、原案通り承認されました。

- 【報告事項】
①平成23年度独立監査人の監査報告書について
②平成23年度期末定期監査報告について
③組合員状況報告について
④財務状況報告について
⑤人事の発令について
⑥平成23年度キャッシュフロー計算書について
⑦JAバンク基本方針に基づく「体制整備モニタリング報告」について
⑧農業体質強化基盤整備促進事業の取り組みについて
⑨平成23年度てん菜の本精算について
⑩平成23年度産共計玉ねぎ・馬鈴しょの選果状況について
⑪生乳生産状況及び個体取引価格について
⑫役員選任に係る地区推薦委員の変更について

- 【議決事項】
①出資増減口及び持分譲渡について
②固定資産の取得について
③北海道常例検査指摘事項に係る改善状況報告について
④退任役員に係る役員退任慰労金の支給について
⑤外部出資の増口について
⑥平成24年度役員報酬における理事・監事報酬総額の配分について
⑦平成24年度給与の改定について
⑧農業体質強化基盤整備促進事業に係る委託業者の選定について
⑨冬期地区別懇談会Q&Aについて
⑩第9回通常総代会提出議案について

第9回通常総代会を開催

前年度の成果と24年度に向けた計画など総代の皆様に審議いただくため、次の通り総代会を開催します。

本総代会は、すでに選任されている403名の総代で構成されて執り行われます。なお、総代の皆様には、召集案内などが届いていると思いますが、当日の出席宜しくお願い致します。

記
○日時 平成24年4月13日(金) 午前10時から
○場所 ホテル黒部(2階・富士の間)
北見市北7条西1丁目



▲昨年の4月15日に開催された第8回通常総代会

国井信一 (販売企画部 農産グループ)
◇S49.7 留辺薬町農協入職
◇H15.2 合併により留辺薬支所販売課 支所課長
◇H18.6 留辺薬支所生産資材課支所課長
◇H20.5 留辺薬支所営農販売課営農販売係
◇H21.6 販売企画部農産グループ
■在職期間 37年9ヶ月

富田賢治 (購買部 資材南エリア)
◇S49.7 留辺薬町農協入職
◇H15.2 合併により留辺薬支所生産資材課支所課長
◇H18.6 置戸支所生産資材課支所課長
◇H20.5 置戸支所生産資材課生産資材係
◇H21.6 購買部資材南エリア
■在職期間 37年9ヶ月

松田敏博 (販売企画部 組織振興東GM)
◇S49.4 端野町農協入職
◇H15.2 合併により総務部総務課長
◇H18.6 北見支所金融共済課支所課長
◇H20.5 端野支所営農販売課営農販売係
◇H21.6 販売企画部組織振興東グループマネージャー
■在職期間 38年
※定年退職者再雇用制度により引き続き在職

退職のお知らせ

平成24年3月末日付、4月1日付で職員の退職がありましたのでお知らせします。各職員とも在職中は、組合員皆様を始め、地域皆様のご厚情をいただき誠にありがとうございました。なお、退職にあたり旧JAの入職年度と合併後の職歴、合せて正職員としての在職期間(旧JA含む)を簡単に紹介します。

小鷹政志 (営農振興部 技術開発グループ)
◇S56.4 上常呂農協入職
◇H15.2 合併により上常呂支所総務課金融係
◇H16.5 上常呂支所営農課経営相談係
◇H21.6 営農振興部技術開発グループ
■在職期間 30年11ヶ月

奥田憲治 (金融共済部 共済課)
◇S47.4 端野町農協入職
◇H15.2 合併により農機燃料課課長補佐
◇H18.6 相内支所生産資材課支所課長
◇H19.6 金融共済部共済課本所係
◇H21.6 金融共済部共済課
■在職期間 39年11ヶ月

相馬光太郎 (購買部 資材東エリア)
◇H3.9 北見市農協入職
◇H15.2 合併により北見支所生産資材課
◇H21.6 購買部資材東エリア
■在職期間 20年6ヶ月
※定年退職者再雇用制度により引き続き在職

石井幸宏 (購買部 資材東エリア)
◇S46.4 端野町農協入職
◇H15.2 合併により端野支所生産資材課
◇H21.6 購買部資材東エリア
■在職期間 41年
※定年退職者再雇用制度により引き続き在職

訂正とお詫び
3月号の「おひさまササナ」の通り誤りがありましたので、訂正の上深くお詫び申し上げます。訂正箇所
○1ページ
訂正 仲山美和さん↓美知さんに

訂正とお詫び
○2ページ
春陽くん↓晴陽くんに訂正
○25ページ
副会長 古谷和徳さん↓古

伊藤博規 (金融共済部留辺薬支店)
①平成4年10月23日
②道立帯広南商業高校、JAカレッジ
③バスケット、ネットオークション
④私はJAカレッジを卒業しましたが、実際に現地へ行くことと解らないことも学ぶこともたくさんあると思いますが、持ち前の明るさと素直さを武器に自分の出来ることから精一杯やってみようと考えています。組合員と職員の皆さんから愛される職員を目指します。ご指導のほど宜しくお願い致します。

梅澤大 (組合員ふれあい室 ふれあい相談畜産グループ)
①平成4年12月10日
②北見緑陵高等学校、JAカレッジ
③野球、ドライブ
④私は小さな頃から野球をやってきました。その中で学んだ向上心と謙虚さを生かし、1日でも早く仕事を覚え、組合員皆様、職員皆様から信頼されるよう努力しますので、ご指導のほど宜しくお願い致します。

林辰憲 (総務企画部付)
①平成2年1月1日
②北見工業大学
③ドライブ、カラオケ
④私は何事にもチャレンジ精神をもって取り組んでいきたいと思っています。農業については日々学ぶべきことが多いですが、1日も早く組合員皆様や職員皆様のお役に立てるよう、誠心誠意、職務に励みたいと思います。まずは笑顔で絶えず頑張りしますので、ご指導のほど宜しくお願い致します。

中野孝祐 (総務企画部付)
①平成2年1月30日
②帯広畜産大学
③ドライブ
④私は、人の役に立つ仕事をしたいという強い思いを持っています。この初心となる思いをしっかりと胸に刻み、多くのことを積極的に経験し、常に仕事に対して自覚を持ち、組合員皆様、職員の方々から信頼を得られるよう努力しますので、ご指導のほど宜しくお願い致します。

武藤美帆 (総務企画部付)
①昭和62年12月19日
②帯広畜産大学大学院
③料理、ソフトボール
④私は生まれ育った北海道の食に貢献したいと思っています。これから組合員皆様のご要望に応えられるよう、早く仕事を覚え、向上心を忘れずに日々、様々なことに挑戦していきたいと思っています。組合員の皆様、職員の皆様のお役に立てるよう笑顔で頑張りしますので、宜しくお願い致します。

武田麻里 (総務企画部付)
①昭和63年6月15日
②帯広畜産大学
③バトミントン
④私は「聞くこと」を大切にしていきたいと思っています。組合員皆様のお話を傾聴することと、解らないことは先輩に聞くことを心にとめて、日々頑張っていこうと思います。常に学ぶ姿勢を持ち、初心を忘れずに精進して参りますので、ご指導のほど宜しくお願い致します。

岡崎千賀子 (金融共済部留辺薬支店)
①昭和37年3月28日
②宮島学園 北海道調理師専門学校
③読書、書道、料理
④職員登用という機会を得て、正職員となりました。今まで以上に職務を遂行していきたいと思っておりますので、宜しくお願い致します。

菅原明希 (営農振興部 企画振興グループ)
①昭和57年5月30日
②JAカレッジ
③読書、野球
④平成18年にJAオホーツク網走を退職後、同年7月、JAきたみらい留辺薬支所販売課付で採用されました。その後、営農課、営農販売課、企画振興グループに在籍し、営農部門全般を経験させていただきました。4月から正職員として、今まで以上に組合員との「絆」を大事にし、地域に根ざした職員として頑張っていきたいと思っておりますので、宜しくお願い致します。

平成24年度

職員登用と新規採用職員の紹介
本年度、職員登用2名、新規採用された6名の職員を紹介いたします。新規採用のうち、4名については1ヶ月間の研修終了後、配属先が正式に決められますが、組合員の皆さん宜しくお願い致します。
①生年月日 ②出身校 ③趣味・特技 ④抱負

新規採用

職員登用



豆のカレー

煮込み時間短縮の
スピードカレー

【エネルギー約755kcal(1人分)】

【作り方】

- ①タマネギは薄切りにして、長さを4つに切る。ニンニク、ショウガはすりおろす。トウガラシは2つに切り、種を出す。
- ②鍋に油を熱し、①を入れて、強火でしんなりするまで5~6分ほど炒める。肉を加え、色が変わるまで炒める。
- ③A、豆を加え、中火で煮る。ふたをしなくて、時々混ぜながら、4~5分とろみがつくまで煮て、火を止める。
- ④ご飯を皿に盛り、③を掛ける。

メモ

いろいろな豆が水煮や缶詰で市販されていて、すぐ利用できて便利です。特に大豆製品はいろいろなミネラルの他、ビタミンB1も豊富。抗酸化作用を持つイソフラボンを含み、骨を強くする働きもします。栄養的にも良い豆類をさまざまな料理で取り入れたいものです。

【材料：4人前】

- 大豆、黒豆など水煮または缶詰200g
- 牛ひき肉300g
- タマネギ大1個(300g)
- ニンニク2片
- ショウガ20g
- 赤トウガラシ1本
- サラダ油大さじ1
- 湯カップ2・1/2
- A [カレールー(市販)4~5かけ
- トマトケチャップ大さじ3
- ご飯800g

おひさまサラダ COOKING

♥おいしいもの大好き!♥



ピリ辛ピクルス

サラダ感覚に
使える「常備菜」

【エネルギー約105kcal(1人分)】

【作り方】

- ①野菜はすべて4~5cm長さ、1cm弱の短冊に切り、ダイコンには小さじ2、ニンジンには小さじ1/2、セロリには小さじ1、それぞれ塩を振って、20分ほど置き、絞って合わせる。
- ②トウガラシは半分に切って、種を除く。
- ③Aを少し温め、②とBを混ぜ、①に掛け、混ぜ合わせる。

メモ

その時々、旬の野菜をピクルスにして保存瓶や密閉容器で常備。バランス良く野菜が取れて、健康にも役立ち、塩分も漬物より、ずっと控えめです。常備菜として、うれしい一品です。翌日から食べられ、冷蔵庫で1週間日持ちします。いろいろな料理にサラダ感覚で使えるのでたくさん作って常備すると重宝します。

【材料：4人前】

- ダイコン400g
- 塩小さじ3・1/2
- ニンジン1本(150g)
- キュウリ1本
- セロリ1本
- 赤トウガラシ2本
- A [ごま油・サラダ油各大さじ1
- B [砂糖大さじ2
- 酢大さじ4

編集後記

・新年度がスタートし、ピカピカのランドセルを背負って小学校の入学や憧れていた高校の制服を着ての入学。そして、社会人としての第一歩を踏み出した皆さん、さっと不安と希望が入り交じっているのではないのでしょうか。

・当JAにも6人の新職員が入り、3月30日に西川組合長から辞令が交付された後、元気よく「がんばります!」という挨拶を聞き、40数年前の自分と重なってしまいました。「あれから40年!」という綾小路きみまろの名セリフがありますが、この言葉の通り、本当にあっと言う間の年月が経過しました。

・新人の皆さんは、JA職員としての長い年月の第一歩を踏み出したばかりです。これから、いろいろな局面に遭遇すると思いますが、初心を忘れずに「組合員のために」、力いっぱい頑張ってください。

(堀 仁志)

JAきたみらい概要

(平成24年3月20日現在)

- ・組合員数(正) 1,826人
- ・組合員数(准) 5,914人
- ・組合員戸数(正) 1,235戸
- ・貯金 101,942百万円
- ・貸出金 17,932百万円
- ・出資金 5,090百万円

発行 きたみらい農業協同組合
〒090-0813 北海道北見市中ノ島町1丁目1番8号
TEL0157-32-8777(4)
責任者/西川孝範
編集者/営農振興部:企画振興グループ